

# 生成AI特許翻訳の戦略的フレームワーク：2026年の課題と解決策

## 1. 課題：生成AI特許翻訳における4大リスク

### 機密保持と「新規性」喪失の脅威



データ侵害平均損失額:  
**\$444万ドル以上**

パブリックなクラウドAI学習による新規性喪失

### 移行句 (Transition Phrases) の誤訳による権利毀損



権利範囲の劇的縮小

### 「流暢な誤訳 (Fluent Errors)」の異

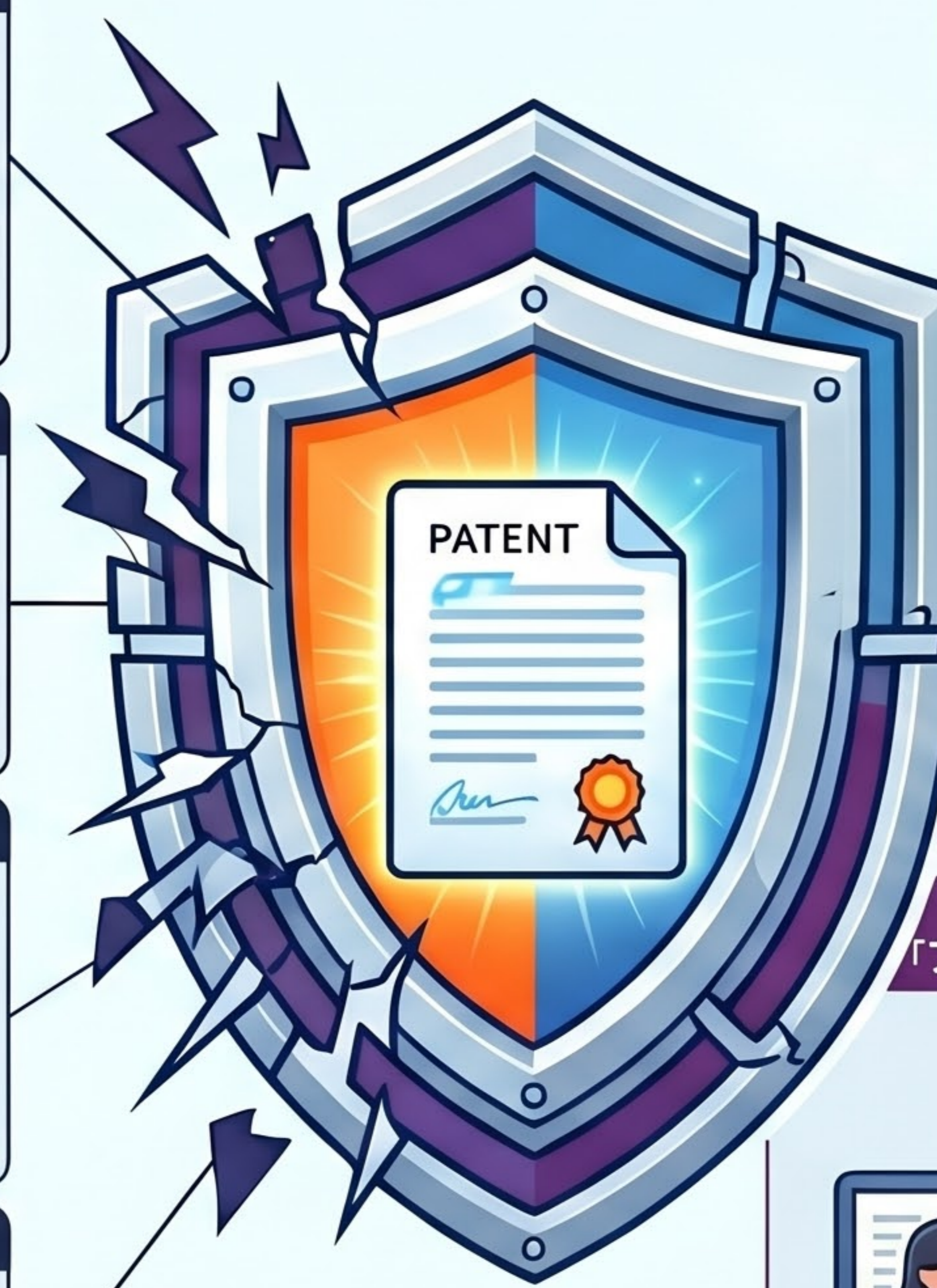


オートメーション・バイアスによる致命的ミス (否定詞欠策、数値誤り)

### 用語の不一致とハルシネーション



長文での不一致、不正確な造語による明確性違反



## 2. 技術的解決策：リスクを最小化するガードレール

### ローカルLLMによる「ゼロ・クラウド依存」の確立



Llama 3  
(INT4量子化)  
組織内オンプレミスAI、  
機密データ外部流出ゼロ

### RAGとファインチューニングのハイブリッド活用



RAG  
(短期記憶・  
動的参照)

ファインチューニング  
(長期記憶・根本的  
適応)

案件固有用語集・  
国面符号

過去の高品質  
対訳データ

一貫性と適応力の両立

### 特許特化のプロンプトエンジニアリング



AIの創造性を抑制し  
厳密な生成を促す構造化指令

	RAG	ファインチューニング
目的	付帯領域の初探	モデル検索の選別
材質	リアルタイム追加	時空幅拡張
コースケース	固面依存脱却	付帯依存脱却

## 3. 運用と規制：人間による最終防衛線と世界動向

### ISO 18587準拠の「フル・ポストエディット」



正確性と可読性を人間同等に  
高める国榭基準準格プロセス

### MQM (多次元品質指標) による定量的評価



MQM (多次元品質指標) による定量的評価

法的範囲逸脱など致命的エラー  
に重みを付けた多角的評価

### 主要特許庁 (JPO/USPTO/EPO) の最新規制



継続的スタンス(2028)

USPTO	AI特許者拒絶
JPO	特許士に解法支援とAI特許申請準備
EPO	LIP等でのハルシネーション警備
WIPO	出願人重視責任